

『概念フレームワーク』プロジェクトについて

１．プロジェクトの背景

討議資料『財務会計の概念フレームワーク』（平成 16 年 7 月公表）を公表後時間が経過し、当委員会の基準開発の過程で指針としての有用性が検証されつつある一方、委員会メンバーによる討議資料の勉強会における指摘事項を含め、各方面からの意見が蓄積されてきた。

経済取引の進展や関係法制度の整備に加え、国際的な会計基準とのコンバージェンスが差し迫った検討課題となる等の環境変化の中で、当委員会が取組むべき新たな基準開発や既存基準の見直しの案件が急増しており、会計基準を効率的に開発してゆく上で、明文化された指針の必要性が高まってきている。

当委員会における会計基準開発は、国際的な会計基準の開発動向に高い関心を払って進められているが、この中で、特に強い関心が持たれているテーマ（資産・負債アプローチのもとでの業績報告や収益認識、経済的単一体説に基づく企業結合会計等）は、全て財務会計についての基本的考え方（概念フレームワーク）に関わる問題であり、今後これらのテーマについて国際的に議論してゆく上で、我が国の考え方を正式な概念フレームワークとして明文化し、それに基づいて意見発信ができるようにしておくことが望ましい。

具体的に、会計基準を巡る国際的な議論としては、平成 17 年 3 月に、当委員会と I A S B との間でコンバージェンスに向けた定期協議が開始され、今まで 2 回の会合が開催されており、近く第 3 回の会合が開催される予定である。過去 2 回の会合では、先方が我が国の会計基準を理解する観点から、これを支える基本的な考え方、概念フレームワークについての説明が求められ、これを巡って活発な意見交換が行われた。近く開催される会合においては、今後のコンバージェンスに向けた協議の方針が議論される予定であるが、会計基準の相違が概念フレームワークに起因すると考えられるテーマについては、長期のプロジェクトと位置づけて、両者の間で議論を継続してゆくことが提案される予定である。

また、当委員会は、近く F A S B との間でも定期的な協議を開始することを予定しており、この中でも、概念フレームワークや、その具体的な表れとしての会計基準のあり方が重要なテーマとなることが予想される。

国際的には、現在IASBとFASBの共同プロジェクトとして、両者の間で概念フレームワークの見直しが進められているが、この段階で、我が国としても概念フレームワークについての考え方を整理し、前記のIASBやFASBとの協議を通じて、これに基づく意見発信を行っていくことは、国際的により説得力のある概念フレームワークを形成することに貢献することにつながり、結果として、会計基準間のコンバージェンスを一層推進することにもなると考えられる。

２．プロジェクトの目的

会計基準開発を巡る上記の状況を踏まえ、今後、我が国の会計基準開発に明確な指針を与え会計基準の効率的な開発に資するため、及び会計基準を巡る国際的な議論の中で、我が国会計基準の考え方の説明と理解に役立てるため、「討議資料」を土台として、その後の基準開発過程における検証や、各方面からの意見の蓄積も踏まえて、早急に、企業会計基準委員会の正式手続を経た財務会計に関する「概念フレームワーク」を開発、公表するためのプロジェクトを立上げる。

上記の目的を達成するため、概念フレームワークの開発に当たっては次の点に留意が必要である。

開発する概念フレームワークは、我が国の現行会計基準の考え方をできるだけ体系的に説明するものであるとともに、今後、会計基準開発を行っていく上で、明確な指針を与えるものであること。

検討にあたっては、概念フレームワークを巡る国際的な議論の動向にも注意を払うこと。

内容と品質を保ちつつも、できるだけ平易な表現に努め、広く市場関係者の理解を得られるものとする。

概念フレームワークの開発も会計基準開発の一貫として行うものであり、他の会計基準開発と同様の開発手続によるが、内容の特性に鑑み、基準の形式としては、従来の３つの基準形式（企業会計基準、適用指針、実務対応報告）とは異なる、新たなカテゴリーとすること。

なお、企業会計原則については、概念フレームワーク公表後も一定の役割を果たすことが考えられるため、その存続については会計基準の棚卸プロジェクトの一環として取扱う。

3 . スケジュールの概要

(1) 準備段階（ 2 月～ 4 月）

ワーキング・グループを再開し、「討議資料」公表後の基準開発における検証状況の確認や、各方面からの指摘事項の蓄積をもとに、対応すべき事項の整理を行う。

(2) 専門委員会の立上げ（ 4 月）

事務局（ワーキング・グループ）が準備した叩き台を下に、専門委員会及び委員会で、議論を尽くす。

(3) コメントの募集（論点整理 or 公開草案等）（夏頃）

(4) 概念フレームワークの公表（着手より 1 年程度）

以 上